

歩いて巡る 油田のぶち散歩

太平洋岸で唯一石油がとれた

さがら **相良油田** 周辺散策MAP



1 坑山神社

相良油田の採掘などで犠牲になった22人の慰霊のために建てられた神社。境内には「石油坑山遭難者之碑」という慰霊碑がある。



2 庄八屋敷跡

日本で最初に石油の機械掘りに成功した油田跡。日本近代石油産業の発祥地で「わが国石油機械掘り発祥の地」の石碑がある。市指定文化財。



3 三枚碑

菅ヶ谷の山並みの峠にあたる場所にある。3枚のうち中央が石坂周造、向かって右が山岡宗之助、左が村上正局の石碑。



4 相良油田石油坑

昭和25年に開坑された機械掘り井で、現存する唯一の石油坑。深さは310メートルもある。県指定文化財。

5 相良油田の里公園

山あいに位置する、油田跡周辺を整備した公園。緑豊かな芝生広場が広がり、手掘り小屋などの珍しい施設のほか、アスレチックやバーベキューガーデン(※)などアウトドア設備が充実している。
※バーベキューガーデンの利用には事前申し込みが必要です。





油田のしくみを
知ろう!

相良油田 資料館



相良油田の特徴と歴史

相良油田(菅山区)は、太平洋岸唯一の産油地です。相良油田の歴史は明治5年、旧幕臣村上正局が海老江(現在の大江区)で石油を発見したことから始まります。その後、日本の石油王・石坂周造の知るところとなり、明治6年、菅ヶ谷に開坑、採油を開始しました。最初は手掘りにより掘削されましたが、この年の10月には、米国製の綱堀り機により日本で最初の機械掘りが行われました。相良油田の原油はガソリンや灯油分を多く含み、極めて軽質な、世界でもまれにみる良質な原油です。明治17年ごろの最盛期には、240坑の油井から年間721kℓ(ドラム缶約3600本分)もの原油が産出され、約600人が働いていました。この採油業は明治から昭和にかけて約80年間、相良の一大産業として広く知られましたが、徐々に衰退。昭和30年ごろ、全ての事業を終了しました。平成19年には、経済産業省の「近代化産業遺産」に認定されました。



相良油田物語 (ファンタズビジョン)

当時、どのように原油を汲み出していたのかを、模型と映像によりストーリー仕立てで説明します。採掘方法には手掘りと機械掘りがあります。



手掘り井戸小屋内部 ジオラマ

土を掘り上げる作業と井戸の底に空気を送り込む作業を、再現しています。



油田周辺の 地形模型

明治後期の相良油田にあった手掘り小屋や機械掘りのやぐらの位置が一目で確かめられます。

施設情報 相良油田資料館

住所 静岡県牧之原市菅ヶ谷 2525-1
TEL&FAX 0548-87-2525
開館時間 9:00~16:00
休館日 火曜日(火曜日が祝日の場合は翌日)、12月29日~1月3日、祝日の翌日(土日に当たる場合は、次の休館日の翌日)

「Twitter」でも情報が獲れるよ
相良油田



『Dr.STONE』とは？

漫画『Dr.STONE』(原作:稲垣理一郎、作画:Boichi)は、平成29年3月から集英社の「週刊少年ジャンプ」にて好評連載中でアニメ化もされている作品です。

「ストーリー」

物語の舞台は、全人類が、謎の現象により一瞬で石化した約3700年後の世界。文明が滅んだ石の世界(ストーンワールド)で、超人的な頭脳を持つ、根っからの科学少年・千空を中心として、仲間たちと一緒に、科学の力でゼロから文明を作り出していく冒険物語です。

物語の中では「科学」が重要な役割を果たしていますが、科学部分が多からなくても、スピーディで引き込まれる展開となっています。

資料館内にコーナーを設置



展示内容

- ▶ 登場スポットマップパネル ▶ ポスター
- ▶ コミックス ▶ アニメプロモーションビデオ
- ▶ メッセージボード

相良油田と『Dr.STONE』

物語の中で、日本から地球の裏側まで航海するための船のエンジンの燃料として「石油」が必要となり、相良油田を目指すこととなります。

コミックス 10巻から11巻にかけて、相良油田が登場します。

手掘り小屋 ▶

第94話の扉絵で描かれています。再現度の高さに驚きます。

相良油田石油坑 ▶

第86話に出てきます。どこに出てくるか、探してみてください。



案内してもらいました♪



◀ 油田にまつわるお話を聞けて漫画もより楽しくなりました♪

▶ 実際に本物の原油を燃やしてもらいました! すごくいい!



◀ 復元だけどもっちゃリアルだった!

▼ 漫画のコーナーがあり、来場者さんのメッセージも貼ってあったよ!



資料館横にある、復元の手掘り小屋にも行ったよ~

